



トップニュース：L R Tの新たな動き = 進む意識変革

このところ、国内でL R Tに関する顕著な動きがいくつも報告されるようになってきました。そのいくつかをご紹介しますと・・・

まず富山市のJ R富山港線のニュースに関連。森富山市長が欧州のL R Tを視察するそうです。平成18年度の富山港線L R T化開業がメニューにのぼっており、市に推進室をつくり、6月議会では導入車両の概要を決めるそうですが、それに先立ち、5月に「市長自ら」参加してドイツ・フランスに車両や交通体系のあり方についての視察を行うとのこと。これは結構画期的なことで、このところ公共交通とまちづくりを掲げていくつもの市民団体が設立されている状況も含め、「何か」が行政や市民の意識を変えつつある様子を伝えているものと思います。富山港線L R T化にはJ Rも現物出資で参加する可能性を示唆しており、このプロジェクトの今後が注目されます。

次に、熊本市と熊本電鉄の話題。まず熊本電鉄が改軌・延長して車両を全てL R Vに切り替え、熊本市電の路線に熊本駅まで乗り入れるそうです。熊本電鉄もやはり地方鉄道としての問題を抱えていたのですが、廃止ではなく、L R Tとして再生・活用することを「地域」が選択したようです。熊本電鉄は中心市街地の北端の藤崎宮にターミナルを抱えていますが、市電の電停までは距離があり、現在、乗客は歩いて中心部にアクセスしています。それが改軌・延長でレールがつながり、中心市街地の各電停まで直接行けるようになります。

そしてほぼ同時期に報道されたのが熊本市電の延伸です。市電の東の末端部の近くに市の動植物園が有るのですが、そこにサイドリザベーションで延伸して市所有の駐車場でパークアンドライドを実施するというものです。

熊本市は日本で最初にL R Vを導入した都市。その他にも熊本市電には「日本初」というのがいくつもあり、それらは行政・市民がともに高い意識を持って積極的に勉強している結果のようです。また、そうしてL R Vを導入したことで行政も事業者も市民もさらに意識変革が進んでいるようで、このところの新規計画の発表はその結果のようです。昨年には熊本市内の4バス事業者間の路線再編を含む需給調整をも発表しています。

この、一定の地域において「何か」が行政・事業者・市民の意識変革を進めて行く様子は目を見張るものがあります。この「何か」を福井でも一つ、都市再生モデル提案を機に打ち出して行きたいものです。（文：清水）

活動報告

- 1月 6日 都市再生モデル部会
- 1月 8日 第16回まちづくり懇談会
- 1月13日 1月作業部会・都市再生モデル部会
- 1月14日 都市再生モデル部会（臨時）
- 1月15日 都市再生モデルアドバイザー会議
- 1月20日 都市再生モデル部会
- 1月23日 1月例会・都市再生モデル部会

今後の予定

- 1月25日（日）北陸交通まちづくりNPO交流会
& L R V試乗会（in 高岡新湊）
- 1月27日（火）都市再生モデル部会
- 1月29日（木）新人福井市議との勉強会・懇談会
- 2月 3日（火）都市再生モデル部会
- 2月 4日（水）勝山市電車利用促進会議との
意見交換会
- 2月 5日（金）第17回まちづくり懇談会
- 2月10日（火）都市再生モデル部会
- 2月17日（火）2月作業部会・都市再生モデル部会
- 2月24日（火）都市再生モデル部会
- 2月27日（金）2月例会・都市再生モデル部会
- 2月 ?日（?）松岡町まちづくりグループとの
意見交換会
- 2月 ?日（?）美山町まちづくりグループとの
意見交換会

第1回アドバイザー会議概要報告

日時：2004年1月15日 15時00分～17時40分

場所：県民会館5F 県民活動センター研修室

出席者：近畿地方整備局 都市整備課街路係	石鍋 一文	係長
中部運輸局鉄道部管理課	星野 雅則	課長
中部運輸局福井運輸支局総務企画課	佐々木 貞明	係長
中部運輸局福井運輸支局	八木 正義	企画調整官
福井県土木部都市計画課	五十嵐 康之	課長
福井県土木部都市計画課	杉原 忠弘	主任
福井県県民生活部総合交通課	島田 英夫	主任
福井県県民生活部えちぜん鉄道支援課	伊東 様（廣田卓哉主任より変更）	
福井市市民生活部総合交通課都市交通対策室	山口 秀明	主事
福井市都市政策部都市計画課	宮下 和彦	副主幹
福井市都市政策部都市整備推進室	高間 光夫	副主幹
福井市商工労働部TMO推進室	橋本 亜由美	主査
えちぜん鉄道株式会社	見奈美 徹	専務
京福バス株式会社管理部	矢崎 孝明	部長
福井鉄道株式会社	鈴置 宏住	常務
福井大学工学部建築建設工学科	川上 洋司	教授

ROBAの会

内田桂嗣 高橋八州太郎 畑みゆき 林博 佐藤弘之 坂川優 谷村はるか 川口充康 清水省吾

合計 25名

アドバイザーからの主な発言

国の認識；全国各地で様々な公共事業やまちづくりを行っているが隘路にはいつている。これを打破するために全国で170の都市再生調査を行う。

是非福井のにおいのする報告書にしてほしい。全国どこでも通用するモデルを作るのではなく、なぜ福井でできないのかをつっこんで書いてほしい。

右肩下がりの時代、ハード面に対応するか、ソフト面に対応するか。ソフト面の対応を進めるべき。ソフト面に集中するべき。

JRとも連携しようとしている。利便性だけで切っ払いなのか、利便性では車には太刀打ちできない。「電車だということができるのもいい」という電車特有の良さを追求していく必要がある。

ゆとりがあれば電車のダイヤに合わせた生活もできるが、市民の意識を後押しするとよい。

鉄道沿線に駐車場を作ることを目的になりがち。駐車場をつくっただけでは利用されない。

欲が多くてたくさん書きすぎではぼやけてしまうことがあるので、少しだけ動かせばよいので、一番やりやすく受け入れられやすい部分にしばって書いても良いのではないかと。外から見たときに福井の特色は何か？

安全な運行、安心して使える、という視点が生活交通ビジョンでは抜けていたのですがROBAだと思った。

えちぜん鉄道は、鉄道をなぜ残すの？あった方がいいよ、という事で残った。公共交通とまちづくりについても、総論でコンセンサスをとってから、じゃあ中心部はこういう風にしましょう、ベル前は？と持っていくとよい。整理するべき。方針を先に出すべき。各論からでは難しい。ストラスブール等でも、まちなかには人の空間を大事にしましょう、という合意があって公共交通を整備した。中心部は公共交通だ、と言い切ってしまうとやりやすいのではないか。

当面全力投球する場所を一点に絞ったほうが良い。その方が行政は逃げにくい。総論で通しておいて、一

都市再生調査はこのなかのひとつでも成功すればよいという考え。一つでも成功体験をつくるのが重要。この席のような各事業者、行政間の連携などはお茶代だけで済む。金をかけなくてもできることもある。

費用便益分析によって採算主義を打ち破れる。市民からの声が出るかどうか。民鉄は儲かるものという認識の間違ひがある。

道路と同じように、社会的財産として、壊れれば税金で直すという行政の意識転換が必要。

株式会社に対して行政が支援をするのはいかなものかという発想もあり、道路と同じように鉄道を社会資本として整備していかなければ、という提案をしているがなかなか地方自治体にまで浸透しない。市民がこのような意識を持つようになればよい。

鉄道の規制緩和が進みすぎているが、事業者と行政の連携がまだできていない。

人は車に相当な金をかけている。「車がなければもっとリッチな生活ができますよ」ということをデータを出して言うことはできないか。

環境問題の話をして聞かないが、実際の数字を出してわかる形で出してもらいたい。

せめて鉄道に交通分担率と同じシェアの予算がほしい。鉄道に税金を投入することへのコンセンサスがとれないか。鉄道は公共インフラであるというところにコンセンサスを形成して欲しい。

福井市の作った計画とよく似ている。行政は自分からやろうとは言いにくい、成功体験があればすぐにやる。「これだけやる」で成功体験をつくっていく方が行政ものりやすい。一点集中が必要。

便利ではなく豊かな生活のための公共交通。ゆったりとした生活の提案が必要。

P13、やろうと思えば予算さえつけばできる。自家用車が普及するまではできていた事だが。市民団体は仕組みづくりが売り。もっと突っ込んで書いてほしい。

電車に子供が乗っていない。乗り方を知らない。子供一人で電車に乗って出かけられるようになる必要があり、教育が必要。将来の顧客として。

ROBAの会の役割は、行政、市民両方の情報をわかりやすくつなぐ事。それを見える形で盛り込んで欲しい。住民との連携から出てきた意見は行政としても採り上げやすい。

予定時間を10分オーバーして時間終了。内田会長の挨拶があり、2月末か3月上旬に第2回アドバイザー会議を考えている。との連絡を行なってアドバイザー会議を終了した。

以上

(記録：川口 充康 加筆：清水省吾)

第16回まちづくり懇談会の報告

日時：平成16年1月8日(木) 19:00~21:30

場所：駅前商店街会議室(五十嵐ビル6F)

参加者：(ROBA)高橋、清水、川口、玉井、坂川、内田
(まちなかNPO)永井、村北、古市、山下 (県立大学)山田

議題：

12月24日ガレリアポケットでの企画について

- ・予算が2万円程オーバーした。追加で負担をお願いしたい。
(持ち帰り検討する。後日相談)
- ・多くの参加者があり、賑わいはあった。
- ・周辺商店からの苦情もなかった。・今後も継続的な活用が大切
- ・今回は、学生中心の企画運営であった。企画側での、組織パワーが発揮できた。
- ・マスコミも早くから取り上げ、一定のインパクトは出せた。
今年の当会の議題と進め方について
- ・これまでは総論中心であったので、テーマ設定を各論にする。
- ・中心市街地活性化と公共交通を中心テーマとする。
- ・各地の事例紹介 ・車にいくらかかっているか。
- ・鉄道予算と道路予算(お金の使われ方)
- ・電車、バスの活用方法・・・等
その他
- ・福井市からバリアフリーに関する計画レポートが出されている。
一度目を通してはどうか。
- ・まちなかNPO 永井理事長が教育現場の先生対象に講義をもった。(地域と学校の連携について)
- ・ROBAから、都市再生モデル事業についての報告

次回開催

日時：2月5日(木) 19:00~21:00

場所：駅前商店街会議室(五十嵐ビル6F)

議題：『中心市街地活性化のためのバス交通』

今回は「都市再生モデル調査」におけるキャラバンの一環として位置付けています。多くの会員の参加をお願い致します。

3月は11月に開催したシンポでの中村先生の講演ビデオ上映会を行う予定です。(記・内田)

作...漆崎耕次

編集後記……編集委員より一言

林(編集長)

「電車のありがたさを実感する福井の真冬日」

清水(副編集長)

「そういえば おもち食べたっけ?」

川口(副編集長)

「雪の日は車を置いて電車でGO!」

内田(発行責任者)

「今年は協働ブーム! NPOそして行政そして地域」

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031 福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : homepage2.nifty.com/tram-fukui